平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月7日

上場会社名　株式会社 秀英予備校　　上場取引所　東
コード番号　4678　URL　http://www.shuei-yobiko.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 渡辺　武
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長　(氏名) 渡辺　喜代子　TEL 054-252-1792
四半期報告書提出予定日　平成25年8月12日
配当支払開始予定日　—
四半期決算補足説明資料作成の有無　:　無
四半期決算説明会開催の有無　:　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	2,165	△6.4	△760	—	△774	—	△487	—
25年3月期第1四半期	2,312	△2.7	△684	—	△699	—	△448	—

(注)包括利益　26年3月期第1四半期　△487百万円　(—%)　25年3月期第1四半期　△448百万円　(—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	△72.70	—
25年3月期第1四半期	△66.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	21,694	9,390	43.3	1,399.49
25年3月期	22,405	9,958	44.4	1,484.19

(参考) 自己資本　26年3月期第1四半期　9,390百万円　25年3月期　9,958百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
26年3月期	—				
26年3月期(予想)		0.00	—	12.00	12.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　:　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,425	0.1	△520	—	△530	—	△370	—	△55.14
通期	12,360	1.1	360	99.2	340	163.3	140	—	20.86

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　:　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
新規 ―社 （社名） 、 除外 ―社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期1Q	6,710,000 株	25年3月期	6,710,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	280 株	25年3月期	233 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期1Q	6,709,734 株	25年3月期1Q	6,709,822 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧下さい。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
（４）追加情報 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 8
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報等） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策による株価の上昇、賃金の底入れの兆しなどに支えられ、個人消費は富裕層を中心に上昇傾向となっております。また、実質成長率も前年を上回り、景気は底堅く推移していると思われます。ただし、勤労者全体の所得総額は前年比横ばい状況であり、今後予定されている増税による消費の減少リスクもあり先行きは不透明であります。

当業界におきましては、新学習指導要領が導入されて小学校で３年目、中学校で２年目を迎え、学習内容が大幅に増加し、また難易度も高くなっており、学習塾へのニーズが高まっております。

同時に個別指導型のＦＣ塾が全国的に急増しており、ボリュームゾーンの学力中下位層が取り込まれていると思われます。今後は、学力上位層を集客するこれまでの集団型の学習塾との二極化が一層進み、一段と競争が激化していくと思われます。

こうした厳しい競合状況において企業として生き残れるかどうかは、①経営環境を全社員の共通認識とすること、②提供する教育サービスが、生徒・保護者によって競合他社と相対的に評価されることを全社員の共通認識とし、それぞれの現場でよりクオリティの高い教育サービスを提供すること、③新しい業態の教育サービスを開発・進化させていくこと、だと考えております。

売上におきましては、小中事業本部・高校事業本部・新規事業本部の各事業本部ごとに、大きく変化した市場及びそれぞれの地域に対応した教育サービスを企画・立案しております。また、募集方法も様々な工夫をし、生徒数の増加と同時に生徒一人当たりの売上単価の向上も図っております。

営業費用におきましては、前期３月より小中学部の42校舎を秀英ｉＤ予備校へ転換したことによる人員削減、大型の設備投資を抑制したことによる減価償却費の減少、校舎家賃の軽減により費用の削減に努めてまいりました。

以上の結果、当社グループの当第１四半期連結累計期間の売上高は2,165百万円（前年同四半期は2,312百万円）、営業損失は760百万円（前年同四半期は営業損失684百万円）、経常損失は774百万円（前年同四半期は経常損失699百万円）、四半期純損失は487百万円（前年同四半期は四半期純損失448百万円）となりました。

なお、季節的変動要因として、当社グループの生徒数は小中学部・高校部ともに夏期講習・冬期講習等の講習に参加した一般生が、それぞれ９月、１月に入学するため、第２四半期以降に増加するところとなっております。一方、営業費用につきましては、人件費・賃借料等が毎月固定的に発生いたします。したがって、第１四半期の収益性は第２四半期以降に比べて低くなっております。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

（小中学部）

小中学部におきましては、各マーケットに対応した戦略を打ち立てるため県・ブロック単位のプロジェクトをさらに進化させ、校舎毎の企画・戦略の立案と募集活動を行ってまいりました。また、管理職も計画的にそれぞれの戦略会議に参加し、現場の活性化を図ってまいりました。こうした取り組みによって年間の予算を大きく左右する夏期一般生募集が、小学生、中学１・２年生、受験学年の３年生の全ての学年において順調に進んでおります。また、前期３月より小中学部42校舎を秀英ｉＤ予備校へ転換したことによりその売上がその他の教育事業に移動しております。小中学部の売上高は1,359百万円（前年同四半期は1,570百万円）、セグメント損失は264百万円（前年同四半期はセグメント損失272百万円）となりました。

（高校部）

高校部におきましては、授業力の高い教師の「遠隔ライブ授業」を複数教室へ同時配信するモデルが確立しております。今期におきましては、新たに高１・２年生の年度途中での退学防止に向けて活動を強化しており、また、卒生コースに徹底演習により学力を養成する「ステップアップ講座」を設立しております。中学３年生から高校１年生への進級に向けての新たな取り組みなども行っております。結果として、マーケット全体の縮小と生徒数の減少により、高校部の売上高は349百万円（前年同四半期は450百万円）、セグメント損失128百万円（前年同四半期はセグメント損失89百万円）となりました。

（その他の教育事業）

個別指導部門におきましては、校舎の新設は行わず既存校での生徒増に取り組んでまいりました。on lineによる映像事業部門におきましては、小中学部の42校舎を秀英ｉＤ予備校に業態変えを行いました。また、将来のＦＣ展開に備えて２校舎をモデル校舎として新設いたしました。いずれも順調に推移しております。結果として、その他の教育事業の売上高は456百万円（前年同四半期は291百万円）、セグメント損失は157百万円（前年同四半期はセグメント損失100百万円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて501百万円減少し、2,617百万円となりました。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて208百万円減少し、19,077百万円となりました。これは、テナントでの出店はあるものの大型の設備投資を抑制したのに対し、有形固定資産の減価償却が進んだこと、建設協力金の回収が進んだためであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて710百万円減少し、21,694百万円となりました。

（負債）

流動負債は前連結会計年度末に比べて73百万円減少し、5,692百万円となりました。これは、１年内返済予定の長期借入金が減少したこと、法人税等の税金納付を行ったことにより未払法人税等が減少したためであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べて68百万円減少し、6,611百万円となりました。これは主に表示上「その他」に含まれているリース債務の返済が進んだためであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて、142百万円減少し、12,304百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は前連結会計年度末に比べて、568百万円減少し、9,390百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の44.4％から43.3％となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、第１四半期連結累計期間における業績は概ね計画どおり推移しており、夏期講習の募集も順調に推移していることを踏まえ、平成25年５月８日に公表いたしました第２四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想の変更はありません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（４）追加情報

（役員退職慰労金制度の廃止）

当社は、役員の退職慰労金の支給に充てるため、役員退職慰労引当金を計上しておりましたが、平成25年５月８日開催の取締役会において、役員退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給を決議し、平成25年６月27日開催の定時株主総会において、当該廃止日までの在任期間に対応する役員退職慰労金を当社の内規に基づき、各役員の退任時に支給することを決議したため、役員退職慰労金の未払額703,964千円を固定負債の「その他」に含めて表示しております。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,906,494	1,214,809
受取手形及び売掛金	252,217	131,331
商品	83,897	87,352
貯蔵品	22,108	26,865
繰延税金資産	130,592	430,700
その他	727,796	728,347
貸倒引当金	△4,207	△2,234
流動資産合計	3,118,899	2,617,172
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,494,833	6,414,165
土地	4,572,413	4,572,413
その他（純額）	654,391	632,194
有形固定資産合計	11,721,638	11,618,773
無形固定資産		
その他	103,285	93,371
無形固定資産合計	103,285	93,371
投資その他の資産		
繰延税金資産	657,443	658,337
敷金及び保証金	6,062,981	5,979,907
その他	1,103,224	1,089,402
貸倒引当金	△362,419	△362,535
投資その他の資産合計	7,461,229	7,365,112
固定資産合計	19,286,153	19,077,257
資産合計	22,405,053	21,694,429
負債の部		
流動負債		
短期借入金	2,690,000	2,660,000
1年内返済予定の長期借入金	966,933	771,269
未払金	540,883	560,078
未払法人税等	77,145	21,980
未払消費税等	29,049	31,132
前受金	567,367	653,043
賞与引当金	179,412	73,173
その他	715,750	922,280
流動負債合計	5,766,541	5,692,958

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
固定負債		
長期借入金	1,732,181	1,750,757
繰延税金負債	508	508
退職給付引当金	1,002,537	1,019,242
役員退職慰労引当金	696,656	－
資産除去債務	695,632	700,482
その他	2,552,380	3,140,257
固定負債合計	6,679,896	6,611,248
負債合計	12,446,438	12,304,206
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,089,400	2,089,400
資本剰余金	1,944,380	1,944,380
利益剰余金	5,924,944	5,356,570
自己株式	△109	△127
株主資本合計	9,958,615	9,390,222
純資産合計	9,958,615	9,390,222
負債純資産合計	22,405,053	21,694,429

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
売上高	2,312,825	2,165,741
売上原価	2,659,033	2,596,018
売上総損失（△）	△346,207	△430,277
販売費及び一般管理費	338,716	329,768
営業損失（△）	△684,923	△760,045
営業外収益		
受取利息	18,350	17,164
その他	6,974	7,698
営業外収益合計	25,324	24,863
営業外費用		
支払利息	38,875	36,669
その他	1,187	2,931
営業外費用合計	40,063	39,601
経常損失（△）	△699,662	△774,784
特別利益		
受取補償金	14,678	－
特別利益合計	14,678	－
税金等調整前四半期純損失（△）	△684,983	△774,784
法人税、住民税及び事業税	15,070	14,075
法人税等調整額	△251,400	△301,001
法人税等合計	△236,330	△286,926
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△448,653	△487,857
四半期純損失（△）	△448,653	△487,857

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△448,653	△487,857
四半期包括利益	△448,653	△487,857
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△448,653	△487,857
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	1,570,752	450,829	291,244	2,312,825
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	1,966	1,966
計	1,570,752	450,829	293,210	2,314,792
セグメント損失（△）	△272,161	△89,751	△100,804	△462,716

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	△462,716
セグメント間取引消去	5,127
のれんの償却額	△8,250
全社費用（注）	△219,082
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△684,923

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間(自　平成25年４月１日　至　平成25年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	1,359,877	349,135	456,728	2,165,741
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	2,953	2,953
計	1,359,877	349,135	459,682	2,168,695
セグメント損失(△)	△264,590	△128,862	△157,467	△550,920

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	△550,920
セグメント間取引消去	5,381
全社費用(注)	△214,507
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△760,045

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。